

## 平成元年代

1989～

バブルが崩壊した平成元年代には、地下鉄サリン事件や阪神淡路大震災が起こりました。震災やナホトカ号重油流出事故の海岸清掃作業などをきっかけに、ボランティアが注目された平成7年は、後に「ボランティア元年」と呼ばれるようになりました。また、ボランティア団体の立場を強化すべきという声が高まり、「特定非営利活動促進法(NPO法)」が実現したのもこの時代です。

社協では、ボランティア連絡会との協働による募金活動の成果でボランティア活動や当事者活動に使用できる福祉バスを導入。排ガス規制法により平成21年に廃車となるまで地域の活動を支える足として活躍しました。

## 平成10年代

1998～

郵政民営化や後の与党大敗の最大の原因ともいわれる公的年金保険料の納付記録漏れ問題などが起こった平成10年代。福祉業界では、社会福祉基礎構造改革のもと、多くの福祉関連法が施行・改正されました。これに伴い、利用者本位の福祉サービスを提供するために社協事業も拡大していきました。

平成10年10月に社協の事務所が福祉会館(現・曾屋ふれあい会館)から保健福祉センターに移転しました。

第72号 平成17年11月1日



### 設立50周年記念号

50周年を記念してシンボルマークを制定。また、多くの皆様から社協に期待することをメッセージとしてお寄せいただきました。

第75号 平成18年11月1日



### 地域福祉活動計画策定のための 市民意識調査

第78号 平成19年11月1日



### すすめよう福祉のまちづくり 紙面サイズをタブロイド判に変更 しました。

第38号 平成4年3月1日



### 精神保健とは こころの病いを持つ人に寄り添うボ ランティアの養成講座をはじめまし た。

第45号 平成6年11月1日



### 福祉バス導入 車イスのまま乗車できるリフトを備 えた福祉バス「ほほえみ号」

第56号 平成12年4月1日



### 介護保険サービスをはじめ新たな事業がスタート

第57号 平成12年10月1日



## 平成20年代

2008～

民主党政権の発足にはじまり、東京墨田区にスカイツリーが誕生した平成20年代。平成23年には死者15,884人、行方不明者2,633人を数える未曾有の大災害となった東日本大震災が発生しました。\* 地域への期待が高まる中で、家族や地域の「絆」が強く意識され、見守り活動や地域での居場所づくり、仲間づくりの場となるサロン活動が秦野市内でも広く展開されるようになっていきました。

\*2014年3月11日現在警察庁発表、一連の余震での死者も含む

第89号 平成23年7月1日



### 東日本大震災 秦野から被災地に赴いた専門職の 方々から担った役割と現地の様子 をうかがいました。

第95号 平成25年7月1日



### 人と社会をつなぐ場所 この号から年4回(春夏秋冬)の発行 となりました。

これからも「社協はだの」は、様々な福祉情報を皆様にお届けしていきます。